

平和への祈りを次代へ

中野区民戦争体験記録集 第三集

— 広島・長崎を語り継ぐ —



中野区

平和への祈りを次代へ

中野区民戦争体験記録集 第三集

— 広島・長崎を語り継ぐ —

憲法擁護・非核都市の宣言

まちには こどもの笑顔がある
ひろばには 若者の歌がある
ここには 私たちのくらしがある

海を越えた かなたにも
同じ人間の くらしがある

いま 地球をおおう 核兵器は
あらゆる いのちの営みを
この しあわせを 奪い去る

私たちの憲法は
くらしを守り 自由を守り
恒久の平和を誓う

私たちは この憲法を大切にし
世界中の人びとと 手をつなぎ
核をもつ すべての国に
核兵器をすてよ と 訴える

この区民の声を
憲法擁護・非核都市 中野区の
宣言とする

昭和57年 8月15日

中 野 区

中野区民戦争体験記録集——第三集——の発刊によせて

中野区長 神山好市

中野区は、平和を願う多くの区民の声を背景に、一九八二年八月に「憲法擁護・非核都市の宣言」を行い、一九九〇年には、総合的な平和行政条例として全国で初の「平和行政の基本に関する条例」を制定しました。そして、これまで平和展や平和のつどいの開催、被爆地広島・長崎への「平和の旅」の実施など、様々な平和への取り組みを行い、世界平和の実現や核兵器の廃絶などを訴えてきました。

いま、東西冷戦構造が崩壊し、世界は対立から協調へと歩みはじめましたが、東ヨーロッパやアフリカなどに見られる、民族的対立による悲惨な争いなど、私たちの胸を痛める事件が続いています。

今年、太平洋戦争の終結から五〇年という節目の年です。三月の東京大空襲、五月の山の手大空襲、八月の広島・長崎の原爆、そして終戦。改めて、平和への思いを区民一人ひとりの胸に刻むことが大切だと思います。

「宣言」十周年を機に、区では、人々が平和の意義を認識し、平和な社会の実現をめざすことを願って、過去の事実を語り継ぐ『戦争体験記録集』の発行に取り組んできました。

今回の第三集は、中野区にお住まいの被爆者の方々の、被爆体験を綴ったものです。区内にお住まいの被爆者の方々からご協力をいただいて、ぜひ次代へあの悲惨な事実を語り継いでおきたいという強い願いを、本書で実現することができました。特に、この第三集は、中学生や青年を含む「聞き書きボランティア」の方々十八名が、被爆者をお訪ねして、共に言葉をひろい、体験を追いながら文字にした九編を集めています。この努力の結晶は、参加したボランティアの皆さんにとどまらず、次の世代の貴重な共有財産になることでしょう。

この記録集が多くの人々に読み継がれ、語り合われ、人々の心に堅固な「平和の砦」を作ることになることを願うとともに、発行にご協力いただいた多くの皆さんに心から感謝いたします。

凡 例

本書に収録した体験記は、いずれも原文を尊重したが、編集の都合上、次のような補正をした。

- ① 漢字は、原則として常用漢字を用いたが、固有名詞・戦争用語などについては、常用漢字表にない漢字も用いた。かなづかい・送りがなについては、できるだけ現代かなづかいに改めた。
- ② 明らかな誤字・脱字・当て字は訂正し、句読点のないものには、これをほどこした。
- ③ 段落のないもの、あるいは段落の極端に少ないものについては、原文を尊重しながら段落を設けた。
- ④ それぞれの体験記には表題をつけ、氏名・町名を掲げた。なお、表題を指定してある場合は、これに従った。
- ⑤ 枚数超過・内容重複などの場合は、原文の一部を削除したこともある。
- ⑥ 記述については、原文尊重を原則としたため、当時使用されていた用語で不適切と思われる言葉についても、あえて原文のまま掲載したものもある。

目次

憲法擁護・非核都市の宣言

中野区民戦争体験記録集―第三集―の発刊によせて

凡例

広島・長崎被爆記録

表紙絵・挿絵

鈴木真理 画

虹の橋……………	林	波満	10
きれいな水を呑ませたかった……………	小	樽夏加	14
生き残った者として……………	岸	本栄子	17
原点……………	間	野絢子	20
地獄の広島を歩いた……………	田	頭和子	25
戦後四九年、広島の記事……………	榎	本武次	32
よくぞ生きてきた……………	田	中邦子	35
救援活動に従事して……………	中	村實郎	40
原爆の日の記憶……………	長	島昭子	43
戦争による苦難からの道程……………	藤	井幸子	47

残されて、生きる	野瀬節子	53
私と広島	江村良雄	58
「未来への証言」	藤平典	63
雨の平和記念像の前にぬかずいて	蔭山澄子	68
昭和二十年八月九日長崎	伊藤とし子	71
心のいたみ	林田幸子	77
この世に太陽が 母なる大地があるかぎり	飯島八重子	80
原子野に復員して	小島辰雄	84
体験記（長崎被爆）	奥平博子	88

被爆を語り継ぐ

— 聞き書きボランティア活動記録 —

少女からの贈り物	語り手	竹内 勇	94
人が人を殺してはならない	語り手	久保 玉子	100
苦しみや悩みは消えない	語り手	中富フサエ	105
悔やまれる広島の救援活動	語り手	城所 太美二	110
原爆は人を減ぼす	語り手	相川キミ子	117

雑草のごとく生きる……………	語り手	伊藤とし子	124
次の世代に伝えられるのか……………	語り手	伊藤又一	130
核兵器の廃絶を願って……………	語り手	海老澤一巳	135
キノコ雲の下の体験……………	語り手	鈴木容子	141

広島ノート

—被爆者広島平和の旅の記録—

「原点」に立って — 広島平和の旅 —……………	藤平典	148
広島レポート……………	田中邦子	153
広島の旅に参加して……………	海老澤一巳	155
広島を再び訪ねて……………	久保玉子	157
ヒロシマ・ルポルターージュ……………	間野絢子	159

資料

広島・長崎原爆被害の概要……………	168
用語解説……………	170
広島・長崎旧市街地図……………	172